

2023年度 株式会社ジェイコム九州北九州局 放送番組審議会 議事録

【開催日時】 2024年2月28日(水) 11時00分～12時15分
【場 所】 株式会社ジェイコム九州北九州局 大会議室
【出席者】 放送番組審議委員：6名中6名出席 ※敬称略・順不同

《会長》

甲木 正子 (株式会社西日本新聞社 執行役員 北九州本社代表)

《委員》

仲道 辰郎 (株式会社ゼンリンウェルサポート 代表取締役社長)

梯 輝元 (魚町商店街振興組合 理事長)

久保山 雅彦 (公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 理事長)

中尾 基 (国立大学法人九州工業大学 工学研究院 教授 博士)

福岡 佐知子 (株式会社三角形 代表取締役)

放送番組審議会事務局：9名出席

上村 忠 (株式会社ジェイコム九州 代表取締役社長)

上田 康夫 (株式会社ジェイコム九州 北九州局長)

奥村 哲 (株式会社ジェイコム九州 北九州局 地域プロデューサー)

八田 一洋 (株式会社ジェイコム九州 北九州局 地域プロデューサー)

篠原 有 (JCOM株式会社 J:COMプロダクション本部 九州制作グループ リージョナルマネージャー)

本田 憲生 (JCOM株式会社 J:COMプロダクション本部 九州制作グループ 北九州・下関チーム 拠点長)

加藤 誠 (JCOM株式会社 J:COMプロダクション本部 九州制作グループ 北九州・下関チーム)

今石 珠貴 (JCOM株式会社 J:COMプロダクション本部 九州制作グループ 北九州・下関チーム)

大津 善彦 (JCOM株式会社 J:COMプロダクション本部 九州制作グループ 北九州・下関チーム)



【開 会】

1) 事務局挨拶（株式会社ジェイコム九州 上村代表取締役社長）

お忙しい中、2023年度ジェイコム九州北九州局の放送番組審議会にご参加いただき有難うございます。

長きにわたるコロナ禍も収束し、対面での開催ができてうれしく思います。

今年は、災害、それに関連した事故、地元商店街での大規模火災の発生など、波乱の年明けとなりましたが皆さまのお力をお借りしながら、なんとか良い番組の制作・放送と地域貢献に取り組んでまいりました。本日は、番組に対するみなさんの忌憚なきご意見を受け賜わることが出来ればと思います。

2) 事務局

委員6名のうち6名出席につき、放送番組審議会規程第4条に基づき当会は成立。

3) 議事進行（甲木会長）

今回の放送番組審議会では、2023年度に制作・放送された番組を審議する。

委員挨拶

仲道 辰郎さん（株式会社ゼンリンウェルサポート 代表取締役社長）

梯 輝元さん（魚町商店街振興組合 理事長）

久保山 雅彦さん（公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 理事長）

中尾 基さん（国立大学法人九州工業大学 工学研究院 教授 博士）

福岡 佐知子さん（株式会社三角形 代表取締役）

4) 自主制作番組制作方針説明（事務局）

2023年度の方針説明を実施

- ① ニュース見直し、新コンテンツの拡充
- ② 内製化推進で地域ステークホルダーへのアプローチ強化、スキル向上
- ③ 法令遵守、管理・コンプライアンス強化

5) 2023年度自主制作番組実績（事務局）

主な番組について説明を実施

<レギュラー番組>

- ・ジモト トピックス 北九州
- ・ジモト トピックス・プラス 九州
- ・こちらJ:COM安心安全課
- ・北九州市広報番組 Kitakyushu diary
- ・ぎQLASS
- ・頂-ITADAKI-アスリート<福岡>

<特別番組>

- ・NHKのど自慢予選会 in北九州
- ・北九州市議会中継
- ・第105回全国高等学校野球選手権記念 福岡大会
- ・関門海峡花火大会2023 生中継
- ・北九州国際映画祭開催記念 特別番組
- ・年頭挨拶2024
- ・ジェイコム九州杯ジュニアサッカー大会2023

6) 2023年度自主制作番組に対する質疑応答

委員：「こちらJ:COM安心安全課」の番組が気になった。防犯・防災など安心・安全に関する情報は、重要だと思った。安心・安全に関しては知りたい情報の一つ。引き続き制作・放送していただきたい。

委員：気になった番組は、北九州市の広報番組「Kitakyushu diary」。映像と音楽のみで構成する番組ということで、インパクトがあった。このような番組はよくあるものなのか。

事務局：企画を考えるうえで、市の担当者と協議を重ねた。「これまでにないような広報番組にしよう」と企画した。ストーリーを重視せず、インパクト重視の映像制作に取り組んだ。

委員：「安全・安心」は重要なテーマ。歩きスマホなど、安心・安全に関する啓発情報は、積極的に放送してほしい。「ぎQLASS」は、生活情報を紹介する番組と受けとめた。ネットで調べられる人と調べるのが難しい人がいる。情報格差が広がっている。ネット、デジタルが苦手な人にもわかりやすいように基本情報、基礎知識を紹介するこのような番組はよい。また歴史に興味・関心のある人が多い。北九州市内には文化財、句碑などたくさんある。歴史情報を紹介する番組があればよい。

委員：様々な番組を制作・放送されていると思うが、見てもらう努力が足りないと感じる。今日、どのような番組が放送されているのかよくわからない。SNSを活用して毎日発信するなどしてはどうか。

事務局：SNSに関しては、番組更新のタイミングで番組紹介などを投稿している。ご意見いただいたことを部内で共有し、SNS活用について改善したい。

委員：安心・安全に関してだが「北九州は災害が少ないので、あまり防災は必要ない」という声がある。このような番組を通じて防災や防犯の情報を伝え続けることの必要性はあると思う。引き続き、番組の制作・放送を希望する。のど自慢の予選会についてだが、テレビは見るだけでなく、出演することに特別感があるのではないかと思う。予選に出場した方々は、喜ばれたのではないか。出るテレビを続けることでJ:COMファンが増えていくと思う。このような出るテレビ番組も続けてもらえればと思う。

事務局：見るだけでなく、出るテレビという観点からも制作に取り組んでいく。

7) 番組審議「ジモト トピックス 北九州」

《番組視聴》ジモト トピックス 北九州（2024年1月20日放送分）

委員：J:COM ならではの地域情報がつまっている番組。大谷グローブの話題が印象に残った。

大谷グローブが配られたことは、全国ニュースなどで知ってはいたが、実際に地域でグローブがどのように使われているかなど、少し掘り下げた情報を知りたいと思っていた。

その情報を知ることができた。また、グローブを手にした子どもたちの笑顔がよかった。

プロスポーツといえば、北九州が本拠地のギラヴァンツ北九州。民放ではなかなか取り上げてもらう機会が少ない。地元のケーブルテレビでぜひ、積極的に取り上げてほしい。

事務局：全国ニュースを地域に落とし込むということを今後も心掛け、制作に取り組んでいきたい。

ギラヴァンツ北九州に関しては、福岡県内のあらゆるスポーツを応援する番組「頂-ITADAKI-アスリート福岡」でJリーグ開幕に合わせ取り上げた。今後も地域のクラブを応援していきたい。

委員：中学生・高校生が出演するニュースが気になった。出るテレビを意識したものなのかなと思った。大人になってテレビに出ることと子どもの時にテレビに出ることは、本人にあたえるインパクトが違う。子どもたちには、経験の一つとして、テレビ出演などを経験してもらいたいと思った。子どもたちを主役にした番組を制作してもらえるとうれしい。

委員：ケーブルテレビは、人にスポットがあてられていることが多いと感じる、取材された人は「映っている」という感覚を味わえる。その感覚は大切だと思う。子どもたちこそカメラに映りたがるし、子どもたちの映像からは、元気がもらえる。子どもたちの元気な姿をもっと放送してもらいたい。合唱などは、本番の様子を取材・放送することは多いと思うが、その過程はなかなか取り上げてもらえない。過程に物語がある場合もある。そのような取材を行ってもらえればと思う。

事務局：子どもたちへの取材を積極的に行いたいですが、個人情報・肖像権の問題があり難しい状況になっている。コロナ禍の折、卒業式の撮影・放送を学校に提案した際、承諾をとることが難しかった。出演者の承諾など、映像制作・放送への考え方を一度整理しなくてはならない。

委員：番組では、いろいろな情報が紹介されているが、情報収集はどのように行っているのか教えてほしい。

事務局：報道発表の資料のほか、一度取材した取材先に声がけを行い情報収集している。

委員：集めた情報の中で、テレビで紹介しない情報は SNS で紹介するなどして、情報の発信を広げてほしい。

委員：番組では、ローカルなニュースが取り上げられていて、丁寧な取材をしていると感じた。

街づくりでいうと、エリアの小さな情報をローカルメディアが取り上げて発信するという役割が街づくりにおいて大切だと言われてきている。小さな情報ということで、影響力がないように思われがちだが、情報を伝えるだけではなく、未来像を伝えるような力強いリーダーシップを期待している。例えばマイノリティの方の情報や一人住まいの方の困りごと取材して発信しているメディアが共感を呼んでいるという話を聞いた。小さな情報であるからこそ、共感・関心を呼ぶ可能性がある。



8) 閉会挨拶（株式会社ジェイコム九州北九州局 上田局長）

委員のみなさまから貴重なご意見をいただき有難うございました。いただいたご意見を番組制作に活かして参ります。今後も地域の皆さまと接点を持ち、地域の発展に貢献できればと思います。

そしてJ:COMを知っていただき、理解していただき、そのうえで、ご利用いただきたいと思ひます。

今後とも、宜しくお願ひ致します。

以 上